

テサロニケ後書

一

二

パウロ、シルワノ、テモテ、書を我らの父なる神及び主イエスキリストに在るテサロニケ人の教會に贈る。願くは父なる神および主イエスキリストの恩恵と平和と、汝らに在らん事を。

三

兄弟よ、我ら汝らにつきて常に神に感謝せざるを得ず、これ當然の事なり。そは汝らの信仰大に加はり、各自みな互

四

の愛を厚くしたればなり。神に感謝す、これ當然にして我らが為すべき事なり。されば我らは汝らが忍べる凡ての迫

五

害と患難との中にありて保ちたる忍耐と信仰とを神の諸

聖書改譯原稿用紙

六

教會の間に誇る。これ神の正しき審判の徴にして、汝らが神の國にふたはしき者とならん為なり。今その御國の為に

七

苦難を受く。汝らに患難を加ふる者に患難をもて報い、患難を受くる汝らに我らと共に安息をもて報い、給ふは神の

八

正しき事なり。即ち主イエス燭の中にその能力の御使た

九

ちと、信に天より顯れ、神を知らぬ者と我らの主イエスの福音に順はぬ者、とに報をなし、給ふ時、斯る者どもは主の

十

顔と、その能力の榮光とを離れて、限りなき滅亡の刑罰を受くべし。その時は主おのが聖徒によりて崇められ、凡ての信する者、我らも我らの證を信じたる者なりによりて讚め

兆徴
相應しき

神の、汝等とて

士
られんとて来り給ふ日あり。これに就きて我ら常に汝ら

のために祈るは我らの神おんがらをして召に適ふべき者

となし、能力をよて汝らの凡て善に就ける願望と信仰の業

士
とを成就せしめ給はん事あり。これ我らの神及び主イエ

スキリストの恵によりて、我らの主イエスの御名の汝等の

中に崇められ又おんがらも彼に在りて崇められん為なり。

聖書改譯原稿用紙

第二章一

兄弟よ我らの主イエスキリストの来り給ふこと又われらが主の許に集ふことに就きては汝らに求む 或は靈により或は言により或は我等より出でし如き書により主の日既に來れりとして容易く心を動かしかつ驚かざらん事を。誰が如何にすともそれに欺かるな。その日の前背教の事あり不法の人即ち滅亡の子あらはれざるを得ず。かれは凡て神と稱ふる者および人の拜む者に逆ひ此等よりも己を高くし遂に神の聖所に坐して己を神なりと稱す者なり。我らんと偕に在りし時これらの事を告げしを汝

聖書改譯原稿用紙

憶えぬか。彼をして己が時に至りて顯れしめんためにかれを阻めざる者を汝らは知る。不法の秘密はずぬに働けりされど二は阻めざる者の除かるまでなり。斯て其のとき不法の者あらはれん而して主イエスキ御口の氣息をもて彼を殺し降臨の輝耀をもて彼を亡し給はん。彼はサタニの活動に従ひて来りしるの虚偽なる力と徴と不思議と不義のもろくの誑惑とを行ひてこぶる者どもに向はん。彼らは真理を愛する愛を受けずして救はる事せざればあり。此の故に神は彼らが虚偽を信ぜん為に惑をその中に働かせ給ふ。これ真理を信せず不義を喜ぶ者のみ

ち審さばかれん為ためなり。

三

されど主しゆに愛あいせらるる。兄弟きやうだいよ、我われら常につね汝あんぢらの為ために神かみ

西

信仰しんかうとをして始はじめより汝あんぢらを救すくひに選えらび、又またわれらの主しゆ

五

を招まねき給たまへばなり。されば兄弟きやうだいよ、堅かたく立ちて我われらの言ことば

六

るひは書ふみに由より教をしへられたる傳つたへを守まもれ。我われらの主しゆイエス

七

キリスト及および我われらを愛あいし恩めぐみ恵めぐみをもて永とこ遠とほの慰なぐさ安やすと善よき望のぞみ

八

とを興あたへ給たまふ我われらの父ちちなる神かみ、願ねがはは汝あんぢらの心こころを慰なぐさめて

九

凡すべての善よき業わざとい言ことばとに堅かたう為給たまはん事ことを。

由りて

聖書改譯原稿用紙

第三章

らん事とわれ

一 終に言はん、兄弟よ、我らのために、**主の言の汝らの中に**
 二 おける如く、疾く弘まりて、**崇められんこと**を祈れ。又われ
 三 らが無法なる悪人より救はれん**事**に祈れ。そは人みま信仰
 四 あるにあらざればあり。されど神は眞實なれば、汝らを堅
 五 うし、汝らを護りて、**悪しき者より救ひ給はん**。斯て我らの
 六 命ずることを、汝らが今も行ひ、後にもまた行はんことを、主に
 七 よりて信するあり。願くは、**主あんぢらの心を、神の愛とキ**
 八 りストの忍耐とに導き給はん**事**を。
 九 兄弟よ、我らの主イエスキリストの名に由りて、汝らに

聖書改譯原稿用紙

一 命ず。我らより受けし傳へに従はずして、**妄に歩む**ての
 二 兄弟に遠ざかれ。如何にして我らに**效ふべき**かは、汝らの
 三 自ら知る所あり。我らは汝らの中にありて、**妄ある事**をせず
 四 價ふしに、人のパンを食せず、**却つて汝等のうち一人をも**
 五 累はさばらん。ために、**勞と苦難**とをもて、**夜晝働けり**。これ
 六 は權利なき故にあらざ、**汝らをして我らに效はしめん**爲に、
 七 自ら模範とありたるあり。また汝らと偕に在りしとき、人
 八 もし**働く事**を欲せずば、**食すべからず**と命じたりき。聞
 九 所によれば、**汝らのうち**に妄に歩みて、**何の業をもふさず**
 十 事**にたづさはる者**ありと。我ら斯のごとき人に、**静か**

に業を^おふして己^{おのれ}のパンを食^{しょく}せんことを我^{われ}らの主^{しゅ}イエスキ

リストに由^よりて命^{めい}じ、かつ勸^{すす}む。兄弟^{きやうだい}よ、汝^{あんぢ}ら善^{ぜん}を行^{おこ}ひて倦^う

むこと勿^なれ。もし此^この書^{ふみ}にいへる我^{われ}らの言^{ことば}に従^{したが}はぬ者^{もの}あ

らば、その人^{ひと}を認^{まじ}めて交^{まじ}ることを為^すふ彼^{かれ}みづから恥^はぢんた

めふり。然^されど彼^{かれ}を仇^{あだ}の如^{ごと}くせず、兄弟^{きやうだい}として戒^{かい}めよ。願^{ねが}

くは平和^{へいわ}の主^{しゅ}、自^{みづか}らいつにても諸^{すべ}般^{ぱん}の事^{こと}に平和^{へいわ}を汝^{あんぢ}らに興^{おこ}

へ給^{たま}はん事^{こと}を。願^{ねが}くは主^{しゅ}あんぢら凡^{すべ}ての者^{もの}と偕^{とも}に在^まさん事^{こと}

を。我^{われ}パウロ手^てづから筆^{ふで}を執^とりて汝^{あんぢ}らの安否^{あんぴ}を伺^とふ。これ

我^{われ}がすべての書^{ふみ}の記章^{しるし}あり。わが書^かけるものは斯^{かく}の如^{ごと}し。

聖書改譯原稿用紙

願^{ねが}くは我^{われ}らの主^{しゅ}イエスキリストの恩恵^{めぐみ}あんぢら凡^{すべ}ての者^{もの}

と偕^{とも}ふらん事^{こと}を。